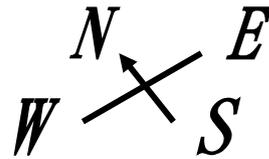


2018年7月1日

第290号

藤沢 エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット



主
な
記
事

- ・総会 2017 年度活動報告, 2018 年活動計画
- ・辺野古レポート # 1
- ・原発ゼロ基本法案学習会に参加して
- ・放射能測定値

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

FAX 0466-87-4922

原発事故の原因と責任

そして、自然と社会が行き着く先の未来像の議論を！！

100万キロワットの原発一基は、一日にウラン235を3キロ核分裂させる。広島型原爆(短時間に瞬間的に石炭3000トンの燃焼に対応する巨大な破壊力を発生する)3発分のエネルギーを、24時間で平均的に発生せしめる仕掛けである。

付随的に発生する放射性核分裂物質が一定の壊変半減期を持ちながらエネルギーを発生しながら原子炉内に蓄積されることになる。一基当たり1年で約1000発分、平均して3年分、従って、福島第一原発では、概略1から3号機までで合計約10000発分の蓄積された放射性廃棄物がメルトダウンし、その何割かが系外に放出されたということ。これが福島原発事故の規模である。チェルノブイリに匹敵する大事故である。(一説では10の1程度の汚染物質の放出)一定区域で居住不可能になるほどの重大事故である。

原発に内在する本質的環境汚染の危機を露呈する重大な事故なのである。今まで一般国民にとって知らされていない、「豊かさの代償としての環境汚染」の問題即ち人類の倫理的、哲学的思想的責任という大問題の提起こそ今回の原発事故の本質的論点である。何故、この事故が防げなかったのかという技術者としての素朴な初歩的な反省と感想を以下述べる。

事故の原因と技術者の責任及び豊かさを追求するあまり環境汚染を甘受してきた消費者の無責任についても率直に考察してみたい。

- (1)メルトダウンの直接的原因は何か?
- (2)全電源停止でも3日間は耐えられる装置が存在していたにも拘わらず、なぜメルトダウンは防げなかったのか?
- (3)緊急冷却操作、特に1号機の手動バルブ操作の確認失敗は言い訳の余地なし、
- (4)3日間の間に非常用電源、及び冷却水の安定確保こそ最大の努力作業であったにも拘わらず・・・自動緊急冷却システムが動いていた2, 3号機がむざむざメルトダウンするのを放置してしまった。



栗の花 石川で見かけた栗林

次ページに続く(渡辺博明)

- (5) 吉田所長をはじめとする現場及び本社、原子力保安院の技術リーダーの責任はなかったのか？
- (6) メルトダウンによる底部の穴あき、大量の海水及び河川水等の、外部冷却水の供給による冷却平衡、大量の汚染水の蓄積等、重大な後遺症を残してしまった。
- (7) 原発の環境汚染の本質的問題、危険性も顕在化することなく、「福島第一原発の英雄たち」という虚像、美談も巷に流布することなく何事もなく。今も原発が稼働し続けている。どちらが望ましいのだろうか。
- (8) 広大な地域の汚染、住民への物資的、精神的犠牲、さらに今後数十年にわたる期間と何兆円という金のかかる廃棄作業、除染作業という後遺症を残した事故の後始末はどうあるべきだろうか。

事故がなくても放射性汚染物質の後処理の問題は依然として未解決で無責任極まりない。

事故発生まで、さらに発生後も重大な影響を被ることなく豊かさの恩恵を享受してきた消費者たる我々は、この後始末をどう主体的につけようとしているのか。この覚悟なしで、原発問題は語れないはずである。

豊かさ、快適な安全で安心な生活の代償としての環境破壊に関する考察が必要である。

人類の歴史と文明の発展——これは環境改変東京都破壊の歴史であり、今後もこの宿命は免れない。特に産業革命以降の人類史は、まさに環境への負荷と破壊加速の歴史である。

科学技術の発展、戦争、地球温暖化、環境ホルモン、情報化と AI 社会の進展——自然と社会との関係、人間一人一人の間の関係論——これらが行き着く先の未来像——この観点から環境責任論が議論されなければならない。

(渡辺 博明)

原発ゼロ基本法学習会に参加して

「原発ゼロ基本法案とは？」のテーマで藤沢エコネット主催の学習会が6月2日辻堂市民図書館ホールで行われました。

講師は近江屋信広さん（原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟(原自連)役員)

原自連が野党各党に申し入れを行って分かった事は、野党4党案の基本法案との違いは5年以内にゼロ、再稼働に待機電力用に2、3基分を考慮するからであった。小泉元首相も自分も政権中心にいて、原発は安くて、安全、クリーンであると言われて思い込んでいた。騙されていた（自民党内の原発研究会）。

原発は安くない、コスト計算に間違い。原発：10.1円/kwと言われていたが、実は17.6円/kw（大島堅一教授）、廃炉費用や事故処理費を含めると201円/kwという試算もある（三上氏）。

もんじゅの維持費の維持費用は一日当たり5000万もかかり、完成する宛もないのに、騙されて多額の税金を無駄に投じてきた。

原発はクリーンと言われてきたが発電時にCO₂を出さないことはない、年間116万トンのCO₂排出統計資料がある。

また、使用済み核廃棄物(死の灰)が多く出る。核のゴミはすぐ満杯になる。処分の見通しは全く立っていない（地下300mの地層処分）、国民合意が全く得られていないのでどこも引き受けない。

今後の課題としては、政府として原発ゼロを宣言することが大切！

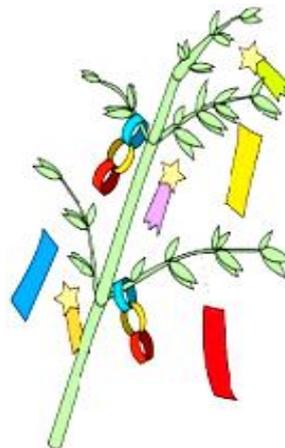
そして、交付金、原発関連の補助金などの財源を再生可能エネルギー普及のために回す方が経済効果は高い。

また、電力の安定供給を可能にするためには水力発電をもっと活用することができる、現状の施設で2倍の発電可能である。

さらに、再生可能エネルギーの受入を拒否する理由にしてきた送電線の空き容量がないはウソ！ 原発再稼働する時のために送電疎遠の空きを予め確保していたことが明らかになった。再生可能エネルギーの普及を抑制する役割を果たしている。自然・再生可能エネルギーを「主役」にするために、ヨーロッパのように

再生可能エネルギーに送電線の使用を優先的にする政策転換が必要である。そして、FIT（固定買取制度）はもっと拡大すべきである。地熱発電・小水力発電の活用など自然エネルギー大国である日本は原発に頼らなくてもエネルギーの確保、自給率100%は可能である。

多くのことを学ぶことができました。（藁谷）



藤沢エコネット 2017年度活動報告 (2017.4~2018.3)

本文東日本大震災福島第1原発事故から7年、昨2017年4月から帰還困難・居住制限区域を除き、帰還が始まった。福島県の子どもの甲状腺がんは196名に上り、放射能の影響を避けるための保養活動が求められている。

原発ゼロだった約2年間の後、2015年に九州電力川内原発が再稼働し以後、計8基が稼働している。1日も早い原発ゼロ政策を実現する必要がある。

地球温暖化防止のために、2015年のパリ協定がめざす脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーが求められている。現在水力を含む再エネは日本15.3%。

バイオハザード予防活動で、巨大な武田薬品湘南研究所は体制が大きく変わり、湘南研究所の看板を下ろし、湘南ヘルスイノベーションパークとなり、20近くの家が雑居するパークに変貌した。安全・安心な研究体制がどうなっていくのか、監視を強める必要がある。

藤沢新庁舎が完成し、タコ足庁舎が解消された。会議室やフリースペースも多くあり、市民の利用が期待される。

(1) 脱原発の活動

◆浜岡原子力発電所見学 10月7日現地の浜岡原発を考える静岡ネットワークと交流し、浜岡原子力館で模型を見学、海近くに並ぶ原発5基を眺望した。近くに同じ中部電力所有の風力発電がたくさん並んでいた。

◆放射能測定 毎月：身近な公園、公共施設などの空間放射線量を測定し、ニュースに掲載。

◆保養活動 年2回、「福島の子どもたちとともに・湘南の会」の保養活動に協力し、延べ52名を招いた。子どもの健康に不安が見られた。「いのちかながわ」保養団体の連絡会に参加し、国への支援要請をおこなった。

(2) 地球温暖化防止活動

◆国の第5次エネルギー基本計画を批判し、市民がつくった太陽光発電（一社）ふじさわサンエナジーに協力。

(3) 大気保全活動

◆6月と12月に藤沢の空気を考える会でNO2大気汚染調査と年1回のぜん息調べをおこなった。喘息学童が増えている。旧基準0.02ppm以下に基準を戻し、汚染対策が求められる。

(4) 環境影響問題

◆武田問題対策連絡会の活動に協力

- ・11/5：総会と講演会「ワクチンの副作用について」
- ・12/1 漏えい事故6周年門前行動。

(5) 開発問題その他

- ・市役所新庁舎完成。
- ・5/20 講演「博物館は必要ですか？～藤沢の自然環境調査から考える～」 大谷房江氏（県自然保護協会）

(6) 環境情報交換活動

- ◆12/9 藤沢市環境フェアに参加。実行委員として準備協力した。3600人参加。
- ◆ニュースを語る会 年2回開催。今後のあり方を相談。
- ◆ニュース4月号(275号)～3月号(286号)発行。
- ◆HPは、ニュース前月号までを掲載している。
- ◆WEB会員にニュース毎月カラー写真入りで配信。

2017年度 決算 (2017.5月～2018.4月)

収入の部		単位：円	
科目	決算	備考	18年度予算
繰り越し	43,988		21,244
会費	115,500		140,000
寄付収入	33,300	寄付	35,000
事業収入	108,600	講座参加費	30,000
雑入	740	チケット戻し	3,756
合計	302,128		230,000
支出の部			
科目	決算	備考	18年度予算案
講師謝礼	25,000	3回	40,000
会場費	4,700	会議室等	10,000
印刷費	21,070	印刷 用紙 紙	33,000
通信費	110,767	切手 メール便	130,000
消耗品	12,640	封筒 ラベルシ	14,000
見学会費	104,577	見学会バス借	0
雑費	2,130	広告料ほか	3,000
次期繰越	21,244		0
合計	302,128		230,000

2018年度 活動計画 (2018.4～2019.3)

戦争は最大の環境破壊、人権破壊である。平和安全法制（戦争法）で集団的自衛権の行使、自衛隊の海外派遣が可能となった。さらに憲法改正の発議がなされようとしている。

原発は現在8基が稼働中、処理不可能の廃棄物を日々吐き出し原発事故は回復不可能の環境汚染となる。藤沢エコネットは「人間が住むにふさわしい環境都市藤沢の実現」にむけて、藤沢市内外で活動する市民の活動と情報の交流及び共通する課題での共同の場をつくる活動を行う。

- ・例会・事務局会議 毎月1回 第1土曜
- ・ニュース発行 毎月1回発送 WEB会員にニュース配信 「エコネットニュースを語る会」を開き、300号記念号の相談
- ・ホームページ更新
- ・環境講座開催—春「原発ゼロ基本法案とは？」秋—自然観察会等 ・ふじさわ環境フェア参加
- ・共通する課題での活動

○地球温暖化防止・自然エネルギー問題—地産地消エネルギー推進 ○脱原発活動—原発ゼロをめざして学習し、意見書提出など 放射能の影響から子どもたちを守る活動や学習会 ○平和問題—戦争への準備を許さず、平和と民主主義を守る活動 ○開発問題—大型開発から自然を守る活動 ○大気問題—年2回全国一斉大気測定(NO2)ぜん息調査 学習会 ○環境影響問題—武田薬品工業/バイオ問題等 ○ごみ問題—ごみ減量・リサイクル、ごみ有料化問題 ○その他—環境に関する政策提言 シンポジウム開催など 以上

辺野古レポート # 1



(辺野古の水中 白化したサンゴ 2017.11.30 撮影武本)

昨春まで見事な造礁サンゴが見られた辺野古（名護市大浦湾）のサンゴがとうとう白化してしまいました！

沖縄では通常年平均7～8回ほどの台風の接近があるのが普通。その事が海水の自然攪乱を起し、夏季における水温の上昇や、高水温停滞などを防ぐことにもなり、台風接近は海の生き物たちにとって重要な要素です

ところが、去年は接近した台風は実質1回のみ！（台風22号）。昨年太平洋を航海していて一番心配していた水温の高さ。予想していた通り台風の進路、時期などを大きく変えてしまっています。

死に向かうサンゴたちを見るのは本当につらいです。地球が音を立てて壊れているのではないかと、言う恐怖心すら覚えます。

続く、、、。（武本 匡弘 日本サンゴ礁学会会員）

--☆-☆-☆-☆-☆--

放射能測定値（市民計測）

（HORIBA Radi）単位（ μ Sv/h）

地上 50cm

6/14 慶応大学宿泊棟前	0.037
6/14 // 調整池付近の草むら	0.032
6/25 鵜沼公民館 駐車場	0.047
6/25 いすゞプラザ駐車場	0.048

ECONET INFORMATION

▲「日本と再生」上映会

7月15日（日）10:45- 14:00-

藤沢カトリック教会センターホール ￥500
主催 卒原発を考える会（カトリック藤沢教会）

▲福島原発かながわ訴訟第29回裁判

7月19日（木）10時から 最終弁論・結審
横浜地裁101号法廷 来年2月に判決予定
午後まであります。傍聴歓迎

▲原爆展

7/23（月）-25（水）10:00-18:00

ユーコープ湘南辻堂駅前店

DVD上映 展示ほか 主催 ピースリレー・ふじさわ



▲不戦の誓い 歌や踊り 市民のスピーチなど

8月15日（水）16:00-18:00

辻堂駅北口2F デッキ

主催 ふじさわ不戦の誓い実行委員会

▲「全国ソーラーシアリングサミット in あしがら小田原大会」

7月14日（土）9:30-視察 12:00-18:00 講演

場所 小田原お堀端コンベンションホール

基調講演 吉原毅（城南信用金庫顧問）ほか

参加費 無料 主催 実行委員会

参加希望者 宮地：090-6186-0452

▲藤沢エコネットから

◆ミニ学習会 「地球温暖化防止について」

講師 谷井昭夫さん 7月7日（土）12:00-13:00

市民活動推進センター会議室

◆新年度になりました。会費・購読料の納入をお願いいたします

ゆうちょ銀行（9900）店番（029）

当座預金 0046501 ㊿ ㊿ネット

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

◆事務局会議 7月7日（土）10:00-

市民活動推進センター会議室

《編集後記》6月12日開かれた史上初の米朝首脳会談は、65年続く休戦状態に終止符を打つ可能性のある、朝鮮半島の非核化、そして平和協定への第1歩として期待したい。Jアラートも解除された。原発は安価だ、それはウソとエコネット学習会で学んだが、原発ゼロ基本法案の審議入りを早くしてほしい。この間にエネルギー基本計画“原発はベースロード電源”が決まりそう。ふくしまっ子リフレッシュが近い。ご支援お願いしたい。（A）